

2025 年度(令和 7 年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 59	福山市立日吉台小学校
最終更新日	2026年(令和8年) 2月20日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
 日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校として大変な状況も多々あると思うが、学力向上や不登校の減少等、子どもたちのためにがんばってほしい。 中学校ボランティア活動等を通して、地域とのつながりを大切にする子ども達の成長が楽しみである。引き続き、地域との連携・協力をよろしく願いたい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。 中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。 中学校における長期欠席の生徒は全体の10.5%である。(R4 全国平均3.8) 	<p>育成する力 資質・能力</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として 統一した取組等</p>	<p>課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のステージへ進むための確かな学力の定着 発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり 相手・目的意識をもたせた特別活動の充実
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会の一員としての自覚を持ち、夢に向かって果敢に挑戦しようとする子どもを育成する。</p>	<p>学校教育目標</p> <p>自ら気づき、考え、判断して行動する子どもの育成</p>	<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査及び標準学力調査等において、市平均や学年の平均を下回っている学年が多い。特に、算数科の思考力においてはどの学年においても大きな課題がある。昨年度、計算検定を新たに取り入れ、基礎的な計算力の定着を図ることで、児童の学習に対する意欲を向上させることができている。 児童の意識調査結果から、「目標や努力することを決めて取り組んでいる。」の項目の肯定的評価の向上が見られた。学習や行事などで目標を決め、振り返りを実施することが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「授業で考えることは楽しい。」95.4%、「授業が分かる。」93.8%であった。肯定的評価は高いものの、児童の意欲が学力の定着に結び付いていない現状があることが考えられる。 学年末確認テスト(思考・表現)の達成率、国語85.9%、算数72.3% 	<table border="1"> <tr> <th>育成する力 資質・能力</th> <th>課題発見力</th> <th>論理的思考力</th> <th>コミュニケーション能力</th> <th>ねばり強さ</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">めざす子ども像</td> <td>低学年</td> <td>「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。</td> <td>事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。</td> <td>自分の思いや考えを相手に伝えることができる。</td> <td>自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。</td> </tr> <tr> <td>中学年</td> <td>既習内容や知識をもとに、自ら問いを見つけることができる。</td> <td>因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。</td> <td>自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。</td> <td>目標を持って最後までやり抜くことができる。</td> </tr> <tr> <td>高学年</td> <td>既習内容や身の回りから探究したい課題を見つけ、解決の見通しを持つことができる。</td> <td>因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。</td> <td>多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。</td> <td>自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。</td> </tr> </table>	育成する力 資質・能力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ	めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。	中学年	既習内容や知識をもとに、自ら問いを見つけることができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。	高学年	既習内容や身の回りから探究したい課題を見つけ、解決の見通しを持つことができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。	<p>研究</p> <p>テーマ 「できる」「わかる」「楽しい」を実感できる算数科の授業づくり ～導入・問題の工夫、対話の充実を通して～</p> <p>内容等 当該学年の基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。 児童が「なぜ?」と考えたくなるように問題・導入場面を工夫する。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもにつける力を明確にし、学力を確実に定着させる授業 子どもが「できた」「わかった」「楽しい」「また、やってみたい」と実感できる授業 子どもが対話を通して、学びを深めていく授業
育成する力 資質・能力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	ねばり強さ																						
めざす子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。																					
	中学年	既習内容や知識をもとに、自ら問いを見つけることができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。																					
	高学年	既習内容や身の回りから探究したい課題を見つけ、解決の見通しを持つことができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。																					

福山市立日吉台小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力以評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力以評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	基礎的な力をつけ、思考力、表現力を育む。	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 読む力、書く力、表現する力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科において、児童が図や言葉を用いて表現する授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期末確認テスト(知識・技能) 国語・算数80点以上 「もっと知りたい、学びたい」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学期末確認テストでは、学校全体の平均点が国語科86.1点、算数科が86.5点で、目標の数値を達成できている。 「もっと知りたい、学びたい」の肯定的回答の割合は、86.8%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を分析し、個の躓きにに応じた取組を行う。 数量関係を把握する力を養うために、図をかいたり、読んだりする指導や図・式・説明を対応させる指導を継続して行う。 計算すらすら検定大会や漢字すらすら検定大会で、達成感を味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期末確認テストでは、学校全体の平均点が国語科90.8点、算数科が89.6点で、目標の数値を達成することができた。 「もっと知りたい、学びたい」の肯定的回答の割合は、89.6%であった。 	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を今後も継続していき、こどもたちの基礎的な力や思考力、判断力を育てていく。
				<ul style="list-style-type: none"> 学年の重点内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科において、重点単元を設定し、研究授業を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科を中心に教材研究を行い、研究授業を全員1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修計画に基づいて、計画的にグループ協議や研究授業を実施することができている。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 系統性を意識した教材研究、授業づくりを行う。 年間計画に沿って、算数科の授業を中心に、研究授業を実施し、授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修計画に基づいて、計画的にグループ協議や研究授業、講師を招いての研修を実施することができた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様、来年度以降も計画的に研修を実施したり、講師を招いて知見を深めたりしていく。
4	自らに自信を持ち、相手を思いやる心を育成する。	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を自覚しながら、協働してやり抜く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動ごとの行動目標に対する振り返りを継続する。 自主的、継続的な係、委員会活動を促進する。 学年を中心に、児童が企画運営する異学年活動を行う。 児童会を中心に、言葉遣いに関する取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級や委員会で自分の役割を果たしている」90%以上 「目標や努力することを決めて取り組んでいる」90%以上 「『くん・さん』をつけて名前を呼ぶなど、相手を意識して丁寧な言葉遣いをしている」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級や委員会で自分の役割を果たしている」の肯定的回答の割合は、95.6%であった。 「目標や努力することを決めて取り組んでいる」の肯定的回答の割合は、92.7%であった。 「『くん・さん』をつけて名前を呼ぶなど、相手を意識して丁寧な言葉遣いをしている」の肯定的回答の割合は、88.3%であった。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 活動ごとの行動目標に対する振り返りを継続する。 自主的、継続的な係、委員会活動の目標や努力することを決めて取り組む。 児童会の月目標に「『くん・さん』をつけて名前を呼ぶなど、相手を意識した言葉遣いをするように設定する。 普段の言葉遣いを振り返り、異学年活動や日頃の活動で生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級や委員会で自分の役割を果たしている」の肯定的回答の割合は、95.2%であった。 「目標や努力することを決めて取り組んでいる」の肯定的回答の割合は、94.1%であった。 「『くん・さん』をつけて名前を呼ぶなど、相手を意識して丁寧な言葉遣いをしている」の肯定的回答の割合は、87%であった。 	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り、児童の相互評価により児童が自信を付ける機会を随時設ける。 係活動、委員会活動で、次に繋がるような振り返りを随時行い、自主的・継続的な活動を促進する。 児童会執行部を中心に取組を行ったり、家庭に呼び掛けたりして、相手を意識した丁寧な言葉遣いができるようにする。
1	自らの生活を律するたくましい心と体を育成する。		新規	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことの楽しさに気付くとともに、自らの生活習慣をよりよく改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握し、体育の授業改善を図る。 ロングロング屋休憩や朝活ウィーク及び主体的に参加できるレクやイベントを継続する。 メディアの使用時間を意識すること 	<ul style="list-style-type: none"> 「体育の授業が好き」90%以上 「運動やスポーツ、外遊び等で体を動かすことが好き」90%以上 生活習慣にかかわるアンケート80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「体育の授業が好き」の肯定的回答の割合は、95.4%で、目標の数値を達成できている。 「運動やスポーツ、外遊び等で体を動かすことが好き」の肯定的回答の割合は、87.2%で、目標の数値に約3%届いていない。 「起きる時刻・寝る時刻を決めて守っている」の肯定的回答の割合は、83.5%で、目標の数値を達 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を踏まえ、運動の楽しさや達成感を味わえる授業を行う。 児童集会で体を動かす運動を紹介する。 7つの約束を基にした取組を、委員会が中心となって発信する。 アウトメディアだよりを通して、保護者のメディア理解を 	<ul style="list-style-type: none"> 「体育の授業が好き」の肯定的回答の割合は、92.6%。 「運動やスポーツ、外遊び等で体を動かすことが好き」の肯定的回答の割合は、91.1%。 「起きる時刻・寝る時刻を決めて守ってい 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を踏まえ、運動の楽しさや達成感を味わえる授業を行う。 委員会を中心に月一回早寝早起き調べを実施し、改善を目指す。 「生活習慣7つの目標」を確立する

				く態度を育む。	ができる取組を行う。		成できている。 ・「メディアの使用の時間を決めて守っている」の肯定的回答の割合は、78.4%であった。			深める取組を行う。		る」の肯定的回答の割合は、76.2%。 ・「メディアの使用の時間を決めて守っている」の肯定的回答の割合は、78.4%。			ために保護者啓発を継続して行う。
5	教職員が自身の力量向上に向けて、やりがいと充実感を持って働こうとする職場環境を作る。	★	継続	・教育公務員としての自覚と責任を持ち、自己研鑽に励む。	・一人一人が自らの能力を発揮できる ・分掌について、目的と方向性を確認しながら企画立案する。	・時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員100% ・「仕事に意義ややりがいを感じている」90%以上 ・「授業づくりを行う時間が確保されている」90%以上	・時間外在校時間月45時間以内職員100% ・「仕事に意義ややりがいを感じている」85.7% ・「授業づくりを行う時間が確保されている」92.7%	3	3	・各学年や各推進部で、目的と方向性を見極めながら企画立案し、取組の進捗状況を確認しながら検証を行っている。	・時間外在校時間月45時間以内職員100% ・「仕事に意義ややりがいを感じている」87.5% ・「授業づくりを行う時間が確保されている」93.3%	4	3	4	・目的と方向性を見極めながら取組を精査していく。 ・企画立案、取組の実施、進捗状況の把握、検証を行う。 ・学年間で見通しをもって、計画的に取り組めるよう、進捗状況の確認を行う。
1	保護者から信頼される学校づくり		新規	・保護者からの満足度の高い学校経営を行う。	・児童が「学校が楽しい。」と感じる学びづくりを行う。	・保護者アンケート「こどもは学校が楽しいと言っている。」90%以上	・保護者アンケート「こどもは学校が楽しいと言っている。」94.0%	4	4	・引き続き、児童が「学校が楽しい」と感じる学びづくりを行っている。	・「学校が楽しい。」と感じている保護者91.4%、児童95.7%であった。	4	3	4	・児童が安心して過ごせる学校づくり、環境づくりを行う。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。